

2022年7月15日 全16頁

「東北」を筆頭に改善、「東海」等は悪化～感染再拡大や長引く供給制約などが焦点

2022年7月 大和地域 AI（地域愛）インデックス

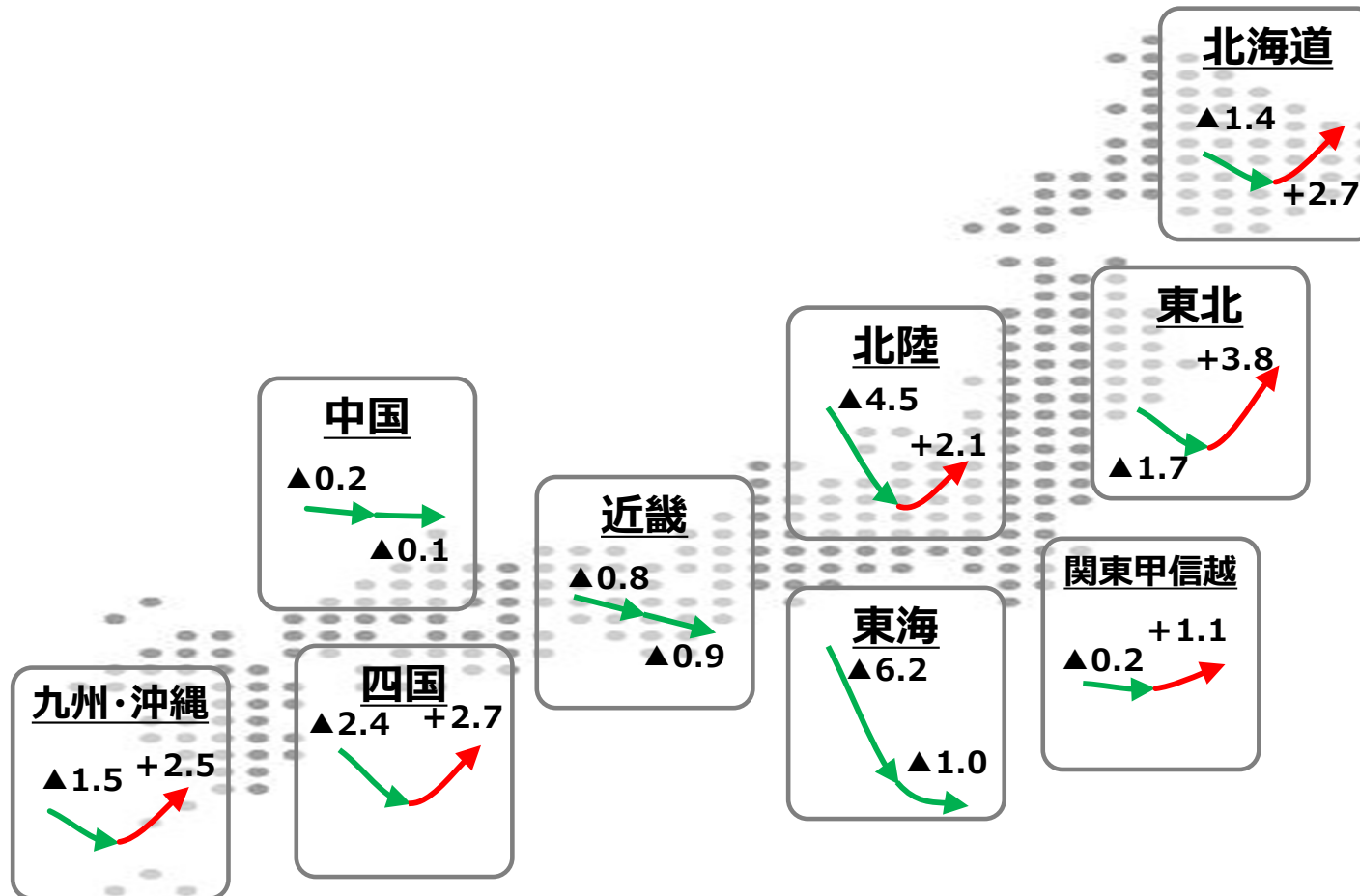
経済調査部 主任研究員 溝端 幹雄
研究員 中田 理恵

[要約]

- 2022年7月の大和地域 AI（地域愛）インデックスは、「東北」を筆頭に6地域で改善したが、「東海」「近畿」「中国」では悪化した。
- 分野別に見ると、家計関連のインデックスは、新型コロナウイルスの感染者数が減少して人々の外出が増えたことが影響し、消費は「四国」「近畿」「東北」をはじめ全地域で改善した。乗用車販売は供給制約の影響により弱い動きを示す地域が多く見られるものの、GW以降、自治体の需要喚起策や大型イベント・修学旅行の再開などもあり、飲食・宿泊、百貨店などのサービス消費は全地域で改善している。住宅投資は、「北海道」で貸家の新設住宅着工戸数がやや悪化しているが、全体的に前回と変わりはない。雇用・所得環境はサービス業のウェイトが大きい「関東甲信越」「近畿」にて労働需給がやや改善している。企業関連では、近隣国のロックダウン等の影響を受けて、輸出は自動車関連を中心に「東海」「近畿」「中国」などで悪化した。生産も、「北海道」の紙・パルプ、「東北」の輸送機械では改善したものの、自動車関連で「近畿」「中国」、汎用・生産用機械や電気機械で「四国」など西日本を中心に悪化している。一方、設備投資は「北海道」「北陸」など4地域で改善しており、企業マインドも「東海」を除けば、近隣国のロックダウンの段階的解除もあり、「九州・沖縄」を筆頭に8地域で改善した。企業の先行きへの見方は比較的良好なようだ。なお、地域経済を下支えしてきた公共投資は、前回から変化はなかった。
- GW以降、感染症に対する人々の不安が一層和らぎ、さらにインバウンド需要の再開や夏休みシーズンの需要回復を見込む声も聞かれる。しかし、ここに来て国内では感染者数が急増していることや、長引く供給制約の影響・円安による物価高、海外景気の後退懸念もあることから、これら経済環境の不確実性には注意が必要だ。
- 今後は、企業関連ではコロナ禍で手控えていた発現分を含めて、設備投資は改善することが予想される。一方、家計関連では、感染再拡大の勢いが増せば、サービス消費の腰折れの可能性が高まるだろう。また、供給制約や国内外の物価高の影響が長引くと、一層の生産・輸出の下押しや消費の抑制も懸念される。地域経済は、緩やかな回復基調にはあると考えるが、特に感染再拡大が消費を抑えるリスクを注視していく必要があるだろう。

※ 本レポート作成にあたって、大和地域 AI（地域愛）インデックスのモデル開発はデータドリブンサイエンス部 DS アナリティクスチーム、データ集計作業はリサーチ業務部データバンク課が担当している

大和地域 AI(地域愛)インデックスの推移 (22年1月→4月、4月→7月)



(注1) 各地域の数値は、2022年1月から4月の変化幅と4月から7月の変化幅。

(注2) 矢印の赤は上昇、グレーが横ばい、緑が低下。

(出所) 日本銀行資料より大和総研作成

ヒートマップ：大和地域 AI(地域愛)インデックスの分野別寄与度（22年4月→7月）

	地域AI	需要項目				生産	企業 マインド
		消費	住宅投資	設備投資	輸出		
北海道	+2.7	赤	白	赤	白	赤	赤
東北	+3.8	赤	白	赤	白	赤	赤
北陸	+2.1	赤	白	赤	白	赤	赤
関東甲信越	+1.1	赤	白	赤	白	赤	赤
東海	▲1.0	赤	白	赤	緑	赤	緑
近畿	▲0.9	赤	白	赤	緑	赤	赤
中国	▲0.1	赤	白	赤	緑	赤	赤
四国	+2.7	赤	白	赤	白	赤	赤
九州・沖縄	+2.5	赤	白	赤	白	赤	赤

（注）さくらレポートの個々の文章に対して分野を設定し、大和地域AIインデックスに対する寄与度を算出。

「赤」が濃いほどプラス寄与、「緑」が濃いほどマイナス寄与。主要な分野を記載。

（出所）日本銀行資料より大和総研作成

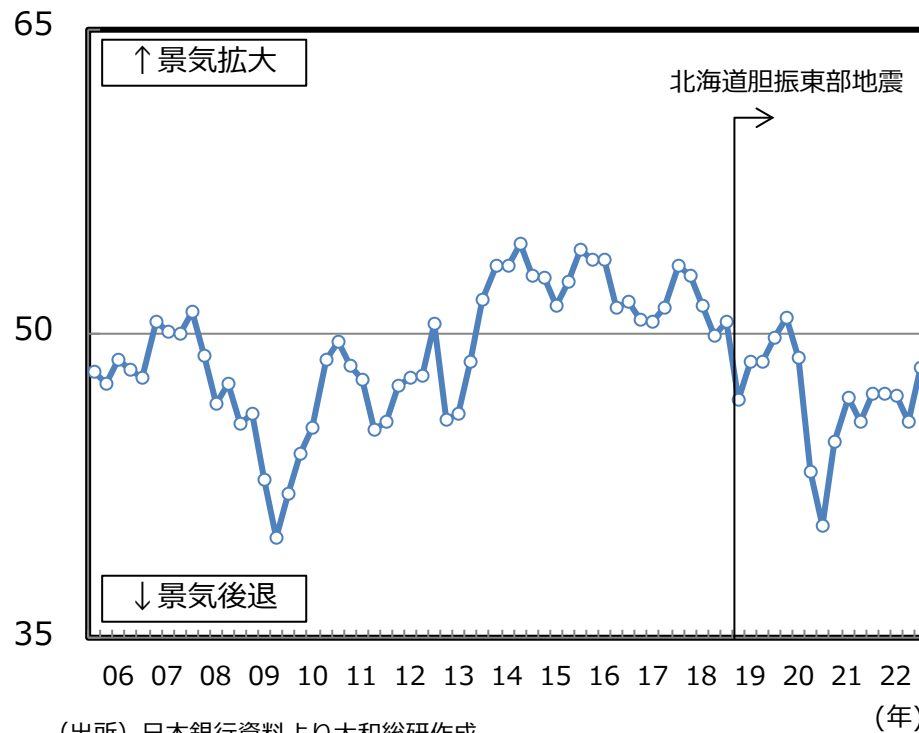
大和地域 AI (地域愛)インデックスの変化 (22 年 4 月→7 月) とポイント

北海道	大和地域 AI インデックスは、4 四半期ぶりに上昇した (22 年 4 月 : 45.6 → 7 月 : 48.3)。消費や設備投資、企業マインド、生産といった幅広い分野の改善がインデックスを押し上げた。
東北	大和地域 AI インデックスは、2 四半期ぶりに上昇した (22 年 4 月 : 47.6 → 7 月 : 51.4)。消費が強く押し上げたほか、企業マインドや生産などの判断も改善した。
北陸	大和地域 AI インデックスは、2 四半期ぶりに上昇した (22 年 4 月 : 47.0 → 7 月 : 49.1)。企業マインドの大幅な改善に加えて、設備投資などもインデックスを押し上げた。
関東 甲信越	大和地域 AI インデックスは、4 四半期ぶりに上昇した (22 年 4 月 : 47.7 → 7 月 : 48.8)。企業マインドや消費の改善がインデックスを押し上げた。
東海	大和地域 AI インデックスは、2 四半期連続で低下した (22 年 4 月 : 45.8 → 7 月 : 44.8)。消費などが改善した一方で、企業マインドや輸出、生産が悪化してインデックスを押し下げた。
近畿	大和地域 AI インデックスは、4 四半期連続で低下した (22 年 4 月 : 46.6 → 7 月 : 45.7)。消費や企業マインドが改善したものの、生産や輸出の悪化を受けてインデックスは低下した。
中国	大和地域 AI インデックスは、2 四半期連続で低下した (22 年 4 月 : 48.7 → 7 月 : 48.6)。輸出や生産の判断悪化が、企業マインドや消費の改善を打ち消してインデックスは小幅に低下した。
四国	大和地域 AI インデックスは、2 四半期ぶりに上昇した (22 年 4 月 : 46.1 → 7 月 : 48.8)。生産の判断が悪化したものの、消費や企業マインドの強い改善がインデックスを押し上げた。
九州・ 沖縄	大和地域 AI インデックスは、2 四半期ぶりに上昇した (22 年 4 月 : 46.8 → 7 月 : 49.3)。生産などの判断が幾分悪化したものの、企業マインドの強い改善や消費の改善がインデックスを押し上げた。

北海道経済の動向

- 大和地域 AI インデックスは、4 四半期ぶりに上昇した（22 年 4 月：45.6 → 7 月：48.3）。
- 消費や設備投資、企業マインド、生産といった幅広い分野の改善がインデックスを押し上げた。
- 生産は紙・パルプで下げ止まりが見られた。6 月の短観によると 22 年度の設備投資は前年度を上回る見込みである。企業等の主な声では、宿泊業や飲食業にてアフターコロナの需要回復を見据えて積極的に投資する姿勢が見られた。

大和地域 AI インデックスの推移



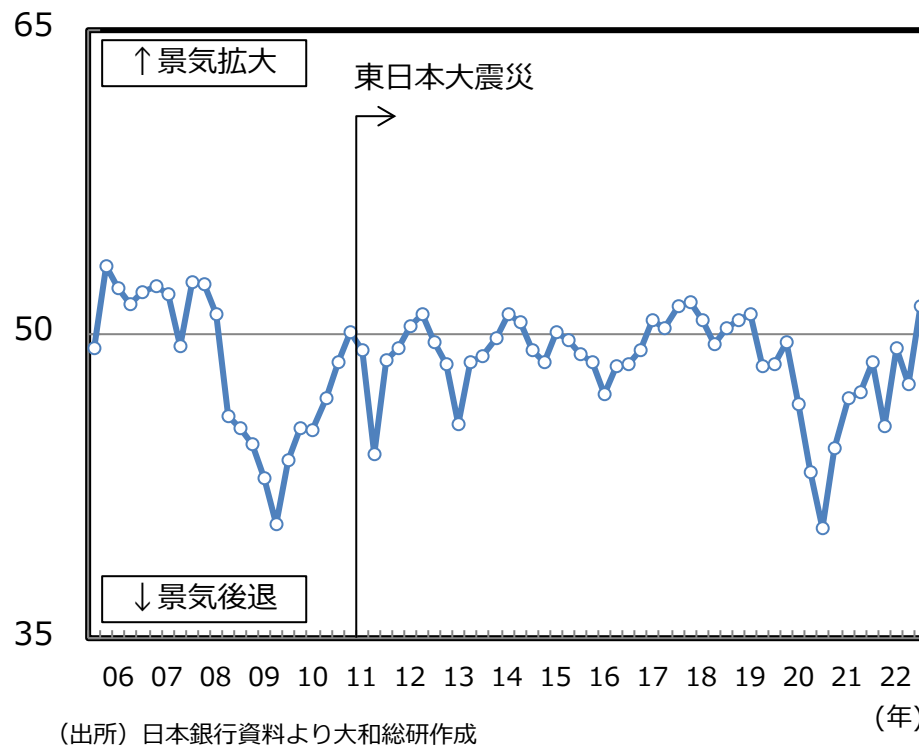
さくらレポートにおける分野別の判断

22 年 4 月	22 年 7 月
【総括判断】	↑
新型コロナウイルス感染症の影響から下押し圧力が強い状態にあり、持ち直しの動きが一服している	新型コロナウイルス感染症の影響がみられているものの、緩やかに持ち直している
【消費】	↑
サービス消費を中心に下押し圧力が強い状態にあり、持ち直しの動きが一服している	新型コロナウイルス感染症の影響がみられているものの、緩やかに持ち直している
【企業の業況感】	↑
悪化している	改善した

東北経済の動向

- 大和地域 AI インデックスは、2 四半期ぶりに上昇した（22 年 4 月：47.6 → 7 月：51.4）。
- 消費が強く押し上げたほか、企業マインドや生産などの判断も改善した。
- 消費は新型コロナウイルスの感染者数が減少して人々の外出が増えたことで改善しており、百貨店やコンビニエンスストア等の小売の他、飲食・宿泊などのサービス消費も改善している。生産も、輸送機械では供給制約の影響を受けつつも、改善している。

大和地域 AI インデックスの推移



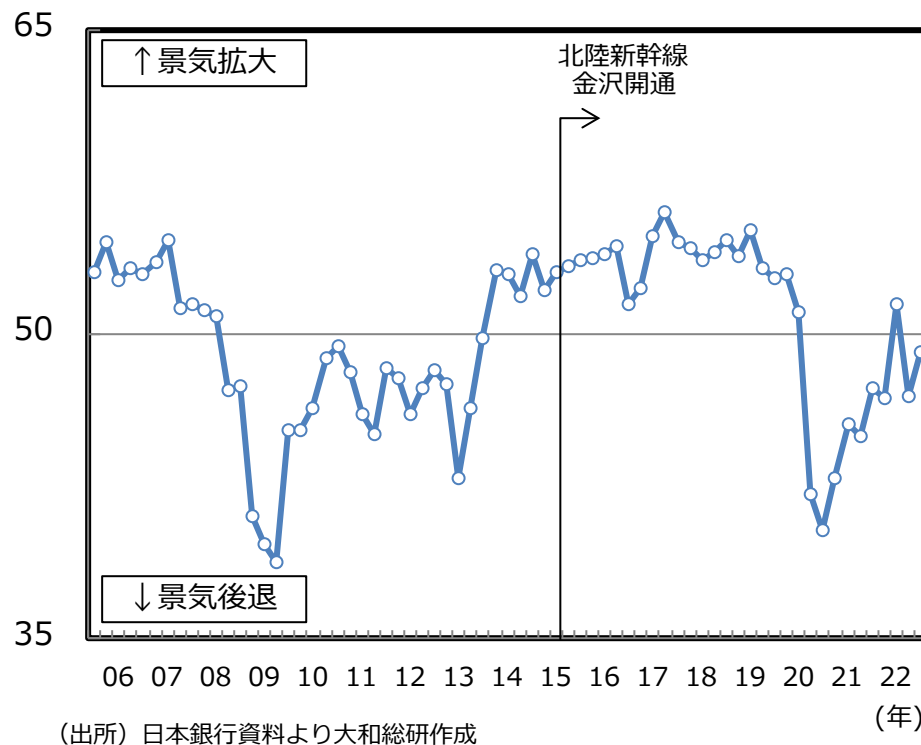
さくらレポートにおける分野別の判断

22 年 4 月	22 年 7 月
【総括判断】	↑
持ち直しの動きが一服している	緩やかに持ち直している
【企業の業況感】	↑
幾分悪化している	幾分改善している
【消費】	↑
新型コロナウイルス感染症拡大の影響などから、弱含んでいる	新型コロナウイルス感染症の影響などが和らぐ中、持ち直している

北陸経済の動向

- 大和地域 AI インデックスは、2 四半期ぶりに上昇した（22 年 4 月：47.0 → 7 月：49.1）。
- 企業マインドの大幅な改善に加えて、設備投資などもインデックスを押し上げた。
- 設備投資は引き続き能力増強・省力化投資を中心に増加している。生産では、生産用機械の増勢が鈍化している。

大和地域 AI インデックスの推移



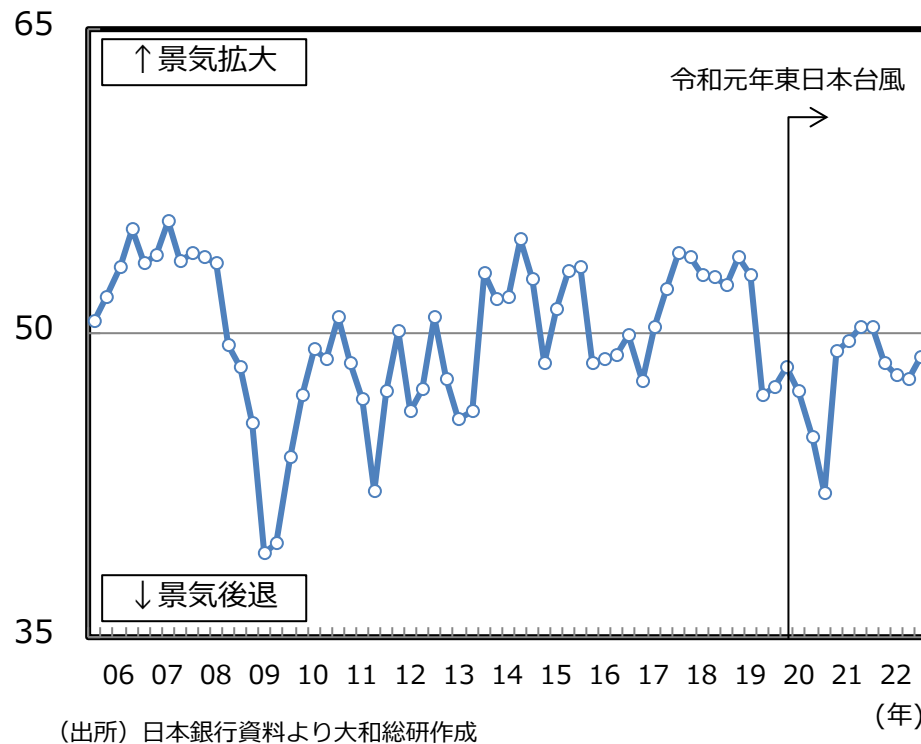
さくらレポートにおける分野別の判断

22 年 4 月	22 年 7 月
【総括判断】	↑
持ち直しの動きが一服している	基調としては持ち直している
【企業の業況感】	↑
悪化している	改善している
【設備投資】	↑
持ち直している	増加している

関東甲信越経済の動向

- 大和地域 AI インデックスは、4 四半期ぶりに上昇した（22 年 4 月：47.7 → 7 月：48.8）。
- 企業マインドや消費の改善がインデックスを押し上げた。
- 消費は新規感染者数の減少や外出意欲の高まりを受けて百貨店や外食・旅行関連サービスなどを中心に改善した。一方で、巣ごもり需要の一服などからスーパーの売上は概ね横ばいとなっている。

大和地域 AI インデックスの推移



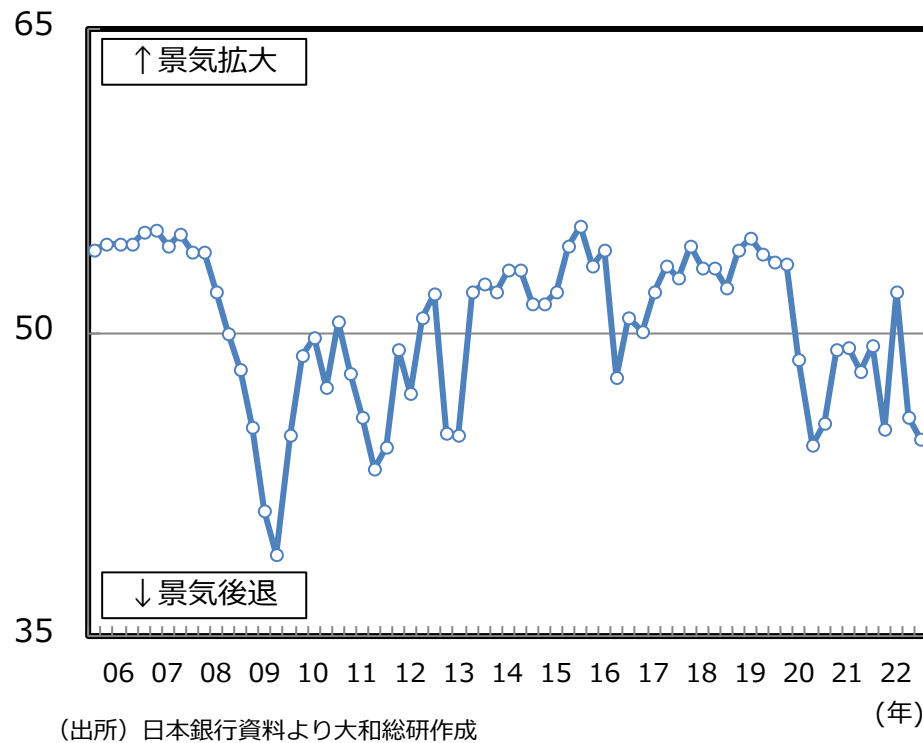
さくらレポートにおける分野別の判断

22 年 4 月	22 年 7 月
【総括判断】	→
感染症の影響などから弱い動きがみられるものの、基調としては持ち直している	供給制約の影響が強まっているものの、個人消費への感染症の影響が和らぐもとの、基調としては持ち直している
【企業の業況感】	↑
幾分悪化している	非製造業を中心に改善している
【消費】	↑
感染症が拡大した時期を中心に弱い動きがみられている	感染症の影響が和らぐもとの徐々に持ち直している

東海経済の動向

- 大和地域 AI インデックスは、2 四半期連続で低下した（22 年 4 月：45.8 → 7 月：44.8）。
- 消費などが改善した一方で、企業マインドや輸出、生産が悪化してインデックスを押し下げた。
- 生産・輸出共に、自動車関連部品の供給不足の影響が継続しており、先行きの不確実性は高い状態にある。

大和地域 AI インデックスの推移



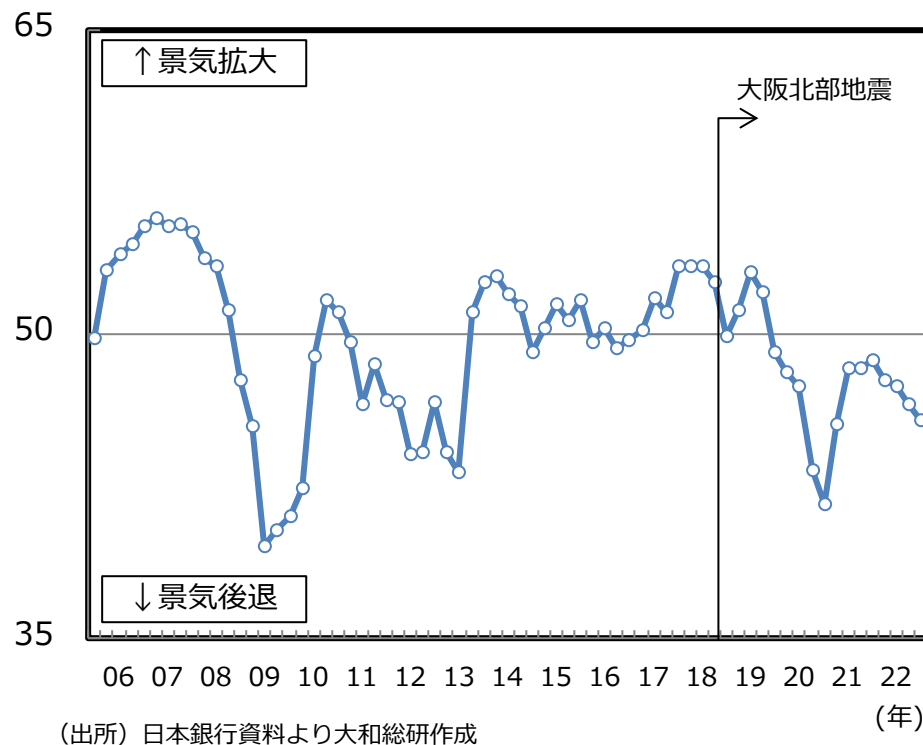
さくらレポートにおける分野別の判断

22 年 4 月	22 年 7 月
【総括判断】	→
持ち直しの動きが一服している	持ち直しの動きが一服している
【企業の業況感】	↓
改善している	横ばいとなっている
【消費】	↑
飲食・宿泊サービス等で下押し圧力の強い状態にある中、持ち直しの動きが一服している	新型コロナウイルス感染症の影響を受けつつも、持ち直しの動きがみられている

近畿経済の動向

- 大和地域 AI インデックスは、4 四半期連続で低下した（22 年 4 月：46.6 → 7 月：45.7）。
- 消費や企業マインドが改善したものの、生産や輸出の悪化を受けてインデックスは低下した。
- 消費は感染症の影響が和らぐもとで持ち直しが明確化している。また、雇用・所得環境にも一部改善の動きが見られた。一方、輸送機械関連を中心に供給制約の影響が続いており、その動きは弱い。

大和地域 AI インデックスの推移



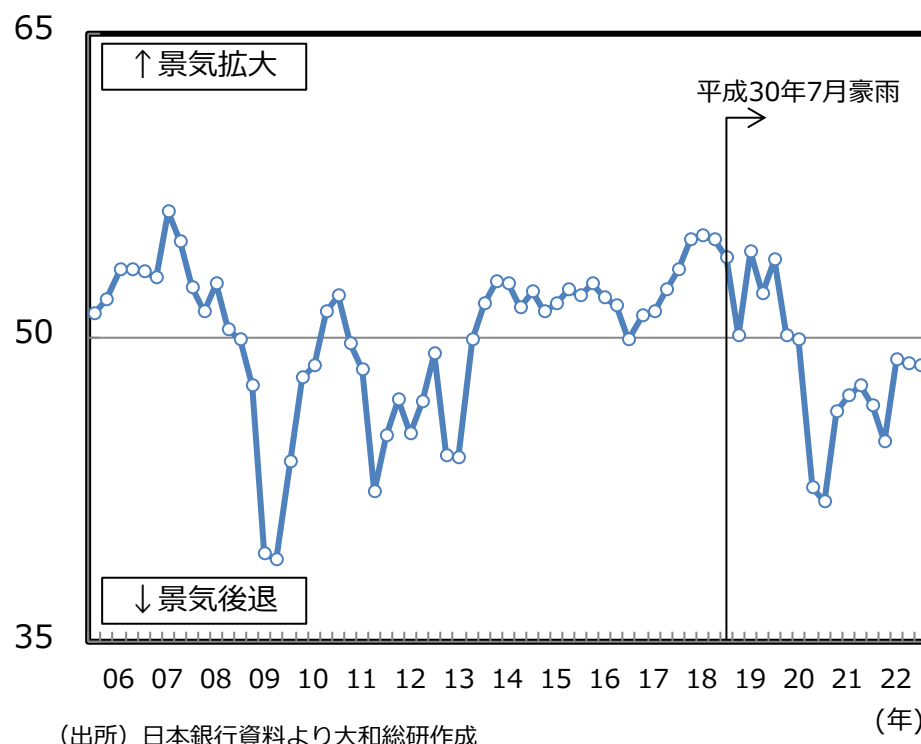
さくらレポートにおける分野別の判断

22 年 4 月	22 年 7 月
【総括判断】	↑
消費への新型コロナウイルス感染症の影響がみられているものの、全体として持ち直し基調にある	中国におけるロックダウン等の影響が残るものの、消費への感染症の影響が和らぐもとで、全体として持ち直している
【生産】	↓
海外における感染拡大や供給制約の影響が一部にみられるものの、基調としては緩やかな増加を続けている	基調としては緩やかな増加を続けているものの、中国のロックダウン等の影響が残存している
【消費】	↑
まん延防止等重点措置が解除されるもとで、持ち直しの動きがみられている	感染症の影響が和らぐもとで、持ち直しが明確化している

中国経済の動向

- 大和地域 AI インデックスは、小幅ながらも 2 四半期連続で低下した（22 年 4 月：48.7 → 7 月：48.6）。
- 輸出や生産の判断悪化が、企業マインドや消費の改善を打ち消してインデックスは小幅に低下した。
- 輸出や生産は自動車で供給制約の影響で持ち直しが一服しており、前回より悪化している。一方で、消費は百貨店売上高や旅行取扱額などが人出の増加につられて持ち直しつつある。

大和地域 AI インデックスの推移



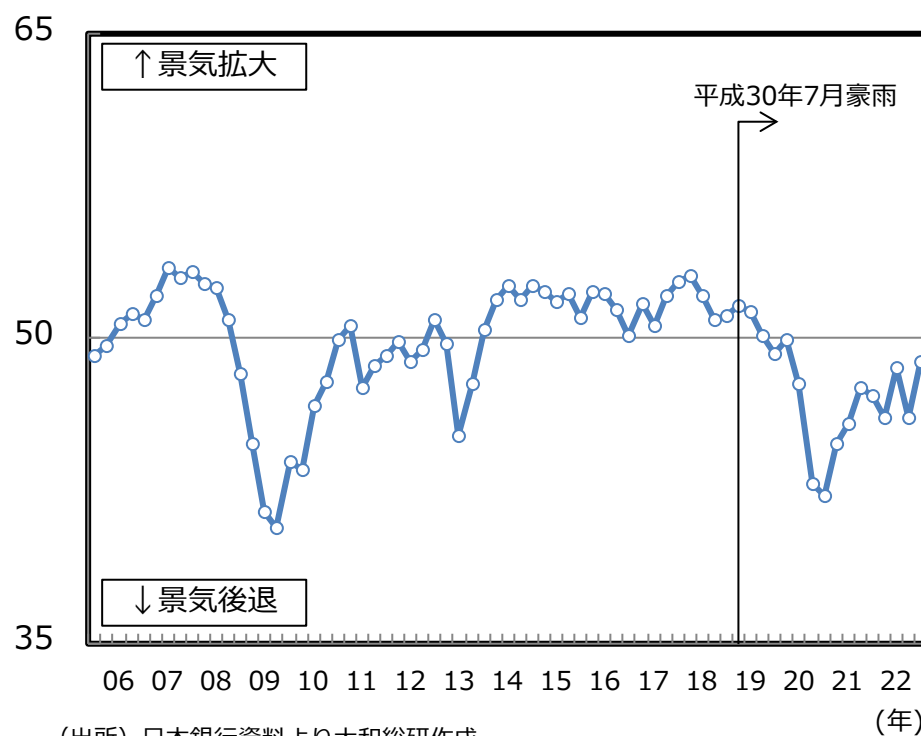
さくらレポートにおける分野別の判断

22 年 4 月	22 年 7 月
【総括判断】	↑
サービス消費を中心に下押し圧力が続いているものの、緩やかな持ち直し基調にある	下押し圧力は残るものの、緩やかに持ち直している
【輸出】	↓
持ち直している	供給制約の影響から、持ち直しが一服している
【企業の業況感】	↑
小幅に悪化している	横ばいとなっている

四国経済の動向

- 大和地域 AI インデックスは、2 四半期ぶりに上昇した（22 年 4 月：46.1 → 7 月：48.8）。
- 生産の判断が悪化したものの、消費や企業マインドの強い改善がインデックスを押し上げた。
- 消費は大型小売店やコンビニエンスストアの売上が改善した。一方、生産は近隣国のロックダウン等の影響を受けて汎用・生産用機械や電気機械などが悪化した。

大和地域 AI インデックスの推移



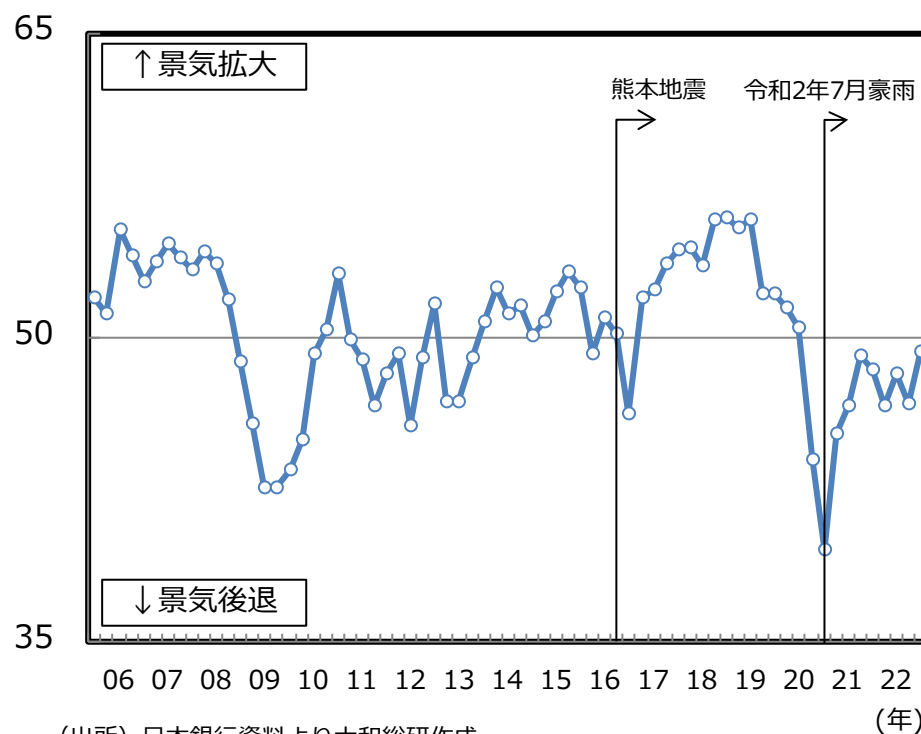
さくらレポートにおける分野別の判断

22 年 4 月	22 年 7 月
【総括判断】	↑
緩やかに持ち直しているものの、一部に新型コロナウイルス感染症等による下押しの影響がみられる	一部に供給制約の影響がみられるものの、全体としては緩やかに持ち直している
【消費】	↑
サービス消費を中心に弱含んでいる	緩やかに持ち直している
【生産】	↓
基調としては持ち直しているものの、一部に供給制約の影響がみられる	基調としては持ち直しているものの、このところ供給制約の影響が強まっている

九州・沖縄経済の動向

- 大和地域 AI インデックスは、2 四半期ぶりに上昇した（22 年 4 月：46.8 → 7 月：49.3）。
- 生産などの判断が幾分悪化したものの、企業マインドの強い改善や消費の改善がインデックスを押し上げた。
- 消費は新型コロナウイルスの影響縮小のもと、人出の増加を受けて百貨店や旅行・観光関連が持ち直している。

大和地域 AI インデックスの推移



さくらレポートにおける分野別の判断

22 年 4 月	22 年 7 月
【総括判断】	↑
持ち直しのペースが鈍化している	緩やかに持ち直している
【企業の業況感】	↑
製造業・非製造業ともに悪化している	製造業・非製造業ともに改善している
【消費】	↑
持ち直しのペースが鈍化している	緩やかに持ち直している

本レポートに関して

- 人口減少と地域経済縮小の悪循環を断ち、**地方創生を実現することが**我が国の大きな課題となっている。地方創生の推進には、地域特性に即した政策の実行とともに、**地域の景気の現状を適切に把握することが必要**となる。
- 本レポートの特徴として、**最先端の AI モデル**を活用して地域別の景況感を示した「**大和地域 AI(地域愛)インデックス※**」を作成し、分析の基礎的な材料としている。
- 大和地域 AI インデックスを用いて**地域別の景況感をヒストリカルに把握**することにより、**各地域に根ざす金融機関や事業会社の経営**に資する情報を提供できると考えられる。
- 地域経済の実態をよりの確に、かつタイムリーに捉えるために、**インデックス算出のモデル等の見直し**は定期的に行っている。
- 本レポートは、2022年7月11日時点で取得可能なデータに基づいて、作成している。

※ 大和地域 AI（地域愛）インデックスの詳細に関しては、下記レポートを参照。

「大和地域 AI（地域愛）インデックスを用いた地域経済分析」

https://www.dir.co.jp/report/research/policy-analysis/regionalecnmy/regionalindex/20170713_012142.html

大和地域 AI(地域愛)インデックスの概要

- 大和地域 AI(地域愛)インデックスとは？

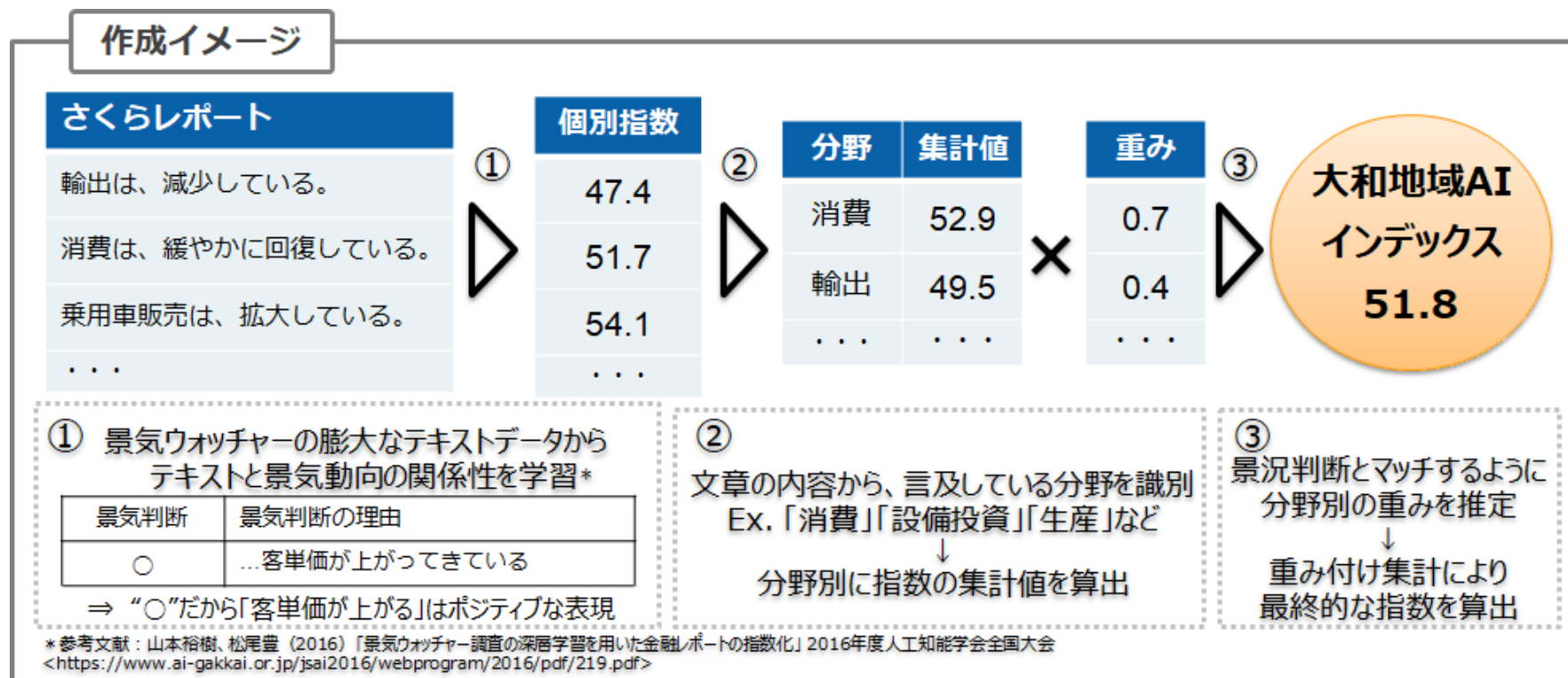
→ **地域別の景況感を最先端の AI モデルで算出した指数。**

※大和地域 AI インデックスは地方経済の景況感を正確に測るよう、定期的にリモデルを行う予定である。

- 具体的な作成手法は？

→日本銀行「地域経済報告（さくらレポート）」の**テキストデータ**を、**AI モデル**で指数化。

AI モデルは、景気ウォッチャーの膨大なテキストデータから、**テキストと景気動向の関係性を学習**。



日本銀行基準における地域区分

- このレポートにおける地域区分は日本銀行基準の地域区分に基づいて執筆している。
- P.5 以降の地域ごとの分析に関しても、原則、下記の地域区分ごとに行っている。

日本銀行基準における地域区分	
北海道	北海道
東北	青森県、岩手県、宮城県、秋田県、 山形県、福島県
北陸	富山県、石川県、福井県
関東甲信越	茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、 千葉県、東京都、神奈川県、 新潟県、山梨県、長野県
東海	岐阜県、静岡県、愛知県、三重県
近畿	滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、 奈良県、和歌山県
中国	鳥取県、島根県、岡山県、広島県、 山口県
四国	徳島県、香川県、愛媛県、高知県
九州・沖縄	福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、 大分県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県

(出所) 日本銀行より大和総研作成